

狭市整発第352号
令和4年10月18日

入間小のケヤキを未来につなぐ会
代表 福住 勇矢 様

狭山市長 小谷野

剛印

拝復 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

貴団体におかれましては日頃より、入曽地域の振興発展にご意見をいただいておりますことに感謝を申し上げます。

ご要望をいただきました私との面会につきましては、面会を希望する全ての個人や団体から、ご意見やご要望を直接伺うことはスケジュール的に難しく、公務への影響も懸念されることから、原則お断りしております。ご希望に沿うことができず誠に申し訳ありません。

市政に関するご意見やご要望につきましては、これまでと同様に、私の提案制度や担当所管を通じてお伺いし、必要に応じて書面で市の考えを回答してまいりますのでご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、公職にある方との面会、スポーツや文化芸術など各種分野で著しい功績をあげた方や団体の表敬訪問、公的・公共的な団体や業界団体からの要望受理や役員交代など慣例的な挨拶、所管同席のもとでの公共事業を受託した事業者との面会や市が後援・協賛したイベント実施に伴う主催者からの挨拶は、この限りではありません。

次に、ケヤキに関する市の基本的な方針につきましては、入間小学校跡地利活用事業における進出事業者より、入曽地区の住民の方々に対し実施したアンケート調査の結果も反映された魅力のある施設として、ブックカフェ・キッズパークが提案されており、若者や子育て世代など多世代が集うような地域住民が希望し、交流人口増加が期待できる有益な施設だと考えており、現在の位置にケヤキを残した場合、これらの施設の建設に影響があるほか、人の集まる商業施設内にケヤキを残すことで、台風や老化などにより枝の落下や倒木による人的・物的被害のリスクがさらに高まることが想定され、本年8月には鹿児島県で学校のイチョウの枝が折れ、死者が出た痛ましい事故も発生しています。更には、以前より周辺住民から風雨によるケヤキの落ち葉の処理に対する苦情も寄せられています。

これらのことを踏まえ、ケヤキの存続についてはこうした商業施設へ影響や安全面、維持管理上での懸念事項が払しょくされない限り、現状においては難しいものと考えております。

以上、回答といたしますが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

敬具